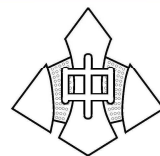


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年3月11日（木）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

もうひとつの卒業式と位置付けた“お別れ会” 小原田中らしい卒業生と在校生の交流でした!!

3月8日（月）に実施された「お別れ会」は、12日（金）の「卒業証書授与式」に出席できない在校生が卒業生に自分たちの想いを伝える場であり、同時に卒業生から在校生に自分たちの想いを託す場でもありました。双方の想いが見事にクロスし、小原田中らしいほのぼのとした会となりました。この会の準備のために心を尽くし、運営にあたったすべての生徒に感謝します。すばらしい会をありがとうございました。

生徒会役員の伊藤由衣さんの進行で会は進み、はじめに生徒会代表の佐々木悠人君から卒業生代表の矢吹芽依さんに記念品が贈呈されました。次に在校生から卒業生へのメッセージで、1年生からは沼田拓実君と菊地瑛心君が感謝の言葉を述べました。想いのこもった立派な発表でした。2年生は13名の部活動部長が勢揃いして一人ずつ感謝の気持ちを述べました。昨年9月の新人戦壮行会で前部長がエールを送ったあのシーンを思い出しました。そして、神田ももかさんの伴奏で、『花束』の在校生合唱が披露されました。その後、卒業生へ応援団からエールが送られました。団長の蓮田翔空君を中心とした新応援団の初舞台となりました。卒業生は、きっと在校生の想いをしっかりと受け取ってくれたものと確信します。



在校生から卒業生へのメッセージ

卒業生から在校生へのメッセンジャーは、薄井優奈さんと前原詩さんが務めました。1・2年生の各クラスには3年生一人一人のメッセージをまとめたものが手渡されました。次に教職員に対して佐々木円君から感謝の言葉があり、一人一人に花束をいただきました。花束には温かいコメントが添えられていました。卒業生と在校生のお別れ会にもかかわらず、教職員への心遣いもいただきました。教職員を代表してお礼を言わせてください。ありがとうございました。

心に染みた歌声!!



この会のとびきりのサプライズとして登場したのが、阿部香奈先生でした。音楽を専門とする阿部先生が披露してくれたのが『瑠璃色の地球』でした。卒業生への想いがこもったその澄みきった歌声は圧巻でした。聴く者の心に染みる歌は、見事に会に華を添えてくれました。



卒業生から在校生・教職員へのメッセージ

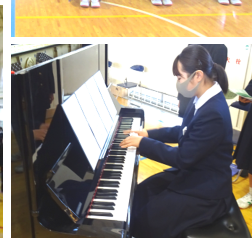
会を締めくくった全校合唱と校歌

会を締めくくったのは、全校合唱と校歌でした。全校合唱『輝くために』は、3年星璃亜さんの伴奏にのって歌い上げられました。全体で合わせる練習は行っておらず、音楽の授業や各学年での練習だけでぶっつけ本番の合唱でしたが、マスク着用にもかかわらず、美しい歌声が体育館に響き渡りました。特に女子の声がすばらしかったです。その後校歌を歌い、会は終了しました。

校長挨拶で話した内容（抜粋）です。

魔法のことは「ありがとう」…生まれてきてくれて、ありがとう。出会ってくれて、ありがとう。そばにいてくれて、ありがとう。支えてくれて、ありがとう。私たちは、心からの「ありがとう」にどれだけたくさんの元気をもらえたことだろうか。「ありがとう」の言葉には、人々の心をまあるくする

など、誰もが幸せになれるような魔法の力があります。だからこそ、「ありがとう」と言える人になってください。そして、「ありがとう」と言われる人になってください。まずは、卒業生に対し、在校生・教職員を代表して、心を込めて伝えます。「コロナ渦の中、学校をよく支えてくれて本当にありがとう」。卒業生は、ご両親やご家族、友だち、後輩、そして先生方…大切な人に心を込めて伝えてください。「ありがとう」と…。最後に、大切な自分自身にも伝えてください。「中学校3年間、本当によく頑張った。自分自身にありがとう」と…。(後略)



心をひとつに…全校合唱『輝くために』

東日本大震災から10年

思いを馳せる…今日は“祈りの日”です

3月11日、今日である東日本大震災からちょうど10年が経過しました。50周年記念誌に掲載されている当時の小原田中の様子です。

卒業式は無事終了し、生徒全員が下校した後に襲ってきた大きな揺れ。この地震で体育館の壁と天井の水銀灯に大きな被害を受けた。生徒が下校していたため、全職員で電話や家庭訪問で生徒の安否確認を行うとともに、通学路や地域の被害状況把握などに奔走した。生徒に負傷者が一人もいなかったのが不幸中の幸いであった。14日からは市内全小中学校が臨時休校となり、学校が再開したのが4月11日。

地震や津波等による大きな被害に加え、放射能という“見えない敵”との戦いは未だに続いています。そして、今まさに我々が直面している新型コロナウイルスという“見えない敵”との戦い。10年前からの状況によく似ています。確かに「復興」は進んでいると思います。しかしながら、福島第一原子力発電所の廃炉への道のりはまだ遠く、「復興」という言葉のかげに、今でも苦しんでいる人たちがたくさんいるということは忘れてはならないことです。

一方で、悲しくつらい出来事も時間が経てば、記憶も薄れていきます。我々は“福島人”として、あの大震災と原発事故を風化させてはならないということを、今日ここで再確認し、午後2時46分には祈りを捧げ、思いを馳せたいと考えます。「思いを馳せる」とは、遠方の人や物事などに思いをめぐらせること(哀悼の意を示すとともに、命の大切さ、思いやり、絆、貢献、畏敬の念、さらには、危険回避能力など、今の自分の状況を様々なことに結び付けながら考えていくことも大切だと思えます。

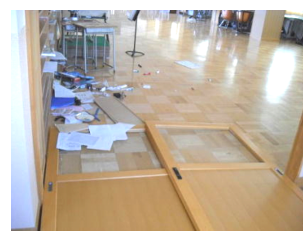
本校の被害の様子



亀裂が入った校舎東側土台



水銀灯が落ちた体育館



入口ドアの倒れた音楽室



“私達にできること”

平成23年4月19日から28日にかけて、生徒会本部とJRCベルマーク委員会が中心となり、義援金募金活動を行いました。多くの義援金が集まり、5月2日福島民報社に届けました。

東日本大震災義援金

5月3日(火) 福島民報

▼郡山市の小原田中生徒会が10万7339円
4月19日から28日まで生徒会が中心となって登録する生徒に募金呼び掛けした。佐藤元二校長ら教職員(保護者も協力した)生徒会長の柳沼実玖さん(副会長の吉成昭雄君、宮島まどかさん、JRCベルマーク委員長の長沼和希君、生徒会顧問の阿部大輔教諭が福島民報社に届けました。



左から宮島さん、柳沼さん、吉成君、長沼君